

第5回竹島問題研究会 開催概要

平成22年10月24日(日)

14:00~17:00 島根県民会館

(欠席) 内田委員、岡委員、中野委員、塚本協力員

1. 下條座長あいさつ

- 竹島問題と尖閣問題については関係国が異なるにもかかわらず類似性が高いこと、ロシアのメドベージェフ大統領が新たに動き出していること、そしてそれらは日本や韓国政府の竹島に対する外交姿勢から学んでいるらしいことなどが報告された。
- ことの発端となっている竹島問題にケリをつけなければ、これから次々と問題が起こってくる。第1、第2の局面が韓国による竹島不法占拠期、島根県議会の「竹島の日」条例制定後の動向とすれば、尖閣問題の発生した現在は第3の局面である。
- 日本政府が竹島問題を放置せず毅然とした外交姿勢を示すことが、尖閣諸島や北方領土にも好影響を及ぼしていくであろうとの指摘があった。

2. 調査・研究活動の状況について

- 次の項目について委員から資料が提出され、意見交換が行われた。
 - ・ 米軍政期韓国の独島／竹島認識（試論）
 - ・ 竹島／独島研究における第三の視角

3. 中間報告の取りまとめについて

- 事務局から提出した、制作案（報告書の構成、規格・部数、スケジュール等）を元に意見交換が行われ、次のとおり意見が集約された。
 - ・ 構成、規格・部数は概ね了承され、7名の委員が執筆に当たることになった。
 - ・ スケジュールについては、知事への提出を平成23年2月を目途に行うこととし、作業を進めることとなった。
- 報告書に掲載予定の研究レポートの一部について原稿が提出され、意見交換が行われたが、時間が限られたため全てについて十分な意見交換ができなかった。改めてメールにより、意見提出、意見交換をすることとなった。
 - ・ 明治10年太政官指令-竹島外一島之儀ハ本邦関係無之-を巡る諸問題
 - ・ 竹島の領有権をめぐる戦後の動向について
 - ・ 島根県の漁業者と日韓漁業紛争
 - ・ 島根県内の小・中学校における「竹島に関する学習」の実施状況～竹島学習副教材の制作・配付をその成果～